

ギリシアの陶画家

クレイティアスの研究

—— 紀元前6世紀前半におけるアッティカ黒像式陶器の展開 ——

平山東子 著



《フランソワの壺》 フィレンツェ国立考古博物館

中央公論美術出版

はじめに

本書は、アッティカ黒像式陶器の画家クレイティアスを取り上げ、その軌跡をたどりながら、ギリシア陶画史上におけるその位置づけを考え、この画家を通して紀元前6世紀前半におけるアッティカ黒像式陶器の展開を考察する一つの試みである。

クレイティアスは、ギリシア陶器を代表する名品の一つである《フランソワの壺Vaso François》（フィレンツェ国立考古博物館所蔵、巻頭展開写真、口絵 i-iii）に銘を残した陶画家としてその名が広く知られている。《フランソワの壺》は、1844年からその翌年にかけて、フィレンツェの考古学者アレッサンドロ・フランソワによってイタリア中部の町キウジ近郊のフォンテ・ロテッラにあるエトルリア人の墓から発見された巨大な渦巻形クラテルである。《フランソワの壺》という呼称も発見者の名にちなんだもので、発見当初からその大きさと、そこに描かれた神話場面の豊かさ、表現の巧みさゆえに多くの人々の注目を集めてきた。しかし1900年には638個もの断片に打ち碎かれるという惨劇に見舞われ、その後も盗難や洪水の被害に遭い、さらに1973年には加筆部分を取り除く解体修理が行われるなど、センセーショナルな話題にも事欠かず、そこに描かれた神話場面の解釈や図像プログラムをめぐるのは、今日までさまざまな論議が展開されてきた。だが、その一方でクレイティアスによる《フランソワの壺》以外の作品はこれまで部分的に紹介されることはあっても、論考の対象として取り上げられる機会のごくわずかであった。筆者はかつて、《フランソワの壺》をテーマとした修士論文を準備していた際に、クレイティアスによる《フランソワの壺》以外の作品群の存在をはじめて知り——その多くは小さな断片であるが——、そのまばゆいばかりの精微さと鮮やかさに思わず息を呑んだ覚えがある。そして、これらの作品に関する先行研究のあまりの少なさに落胆したと同時に、《フランソワの壺》を理解するうえでも、また、コリントス陶器の模倣に始まり、やがて地中海沿岸地域一帯に大量に輸出されるようになった紀元前6世紀前半におけるアッティカ黒像式陶器の発展のプロセスを考えるうえでも、クレイティアスの総括的な研究の必要性を痛感した。それが本書の出発点である。

序章

クレイティアスの背景 研究の方法と推移

第1章 陶画家クレイティアスの作品群

第1節 クレイティアスの銘のある作品

第2節 クレイティアスに比定される作品

第2章 クレイティアス周辺の作品群

第1節 「アクロポリス601の画家」に比定される作品

第2節 そのほかのクレイティアス周辺の作品

第3章 器形と装飾

第1節 陶工エルゴティモス

第2節 各器形の推移と装飾方法
a. アンフォラ
b. 渦巻形クラテル
c. ヒュドリア
d. オルベ
e. 小台
f. カンタロス
g. スキュフォス、およびスキュフォスに類する器形
h. ゴルディオン・カップ
i. メリーソート・カップ
j. リップ・カップ

第4章 クレイティアスの様式の展開

第1節 相対的編年

第2節 描画モチーフの種類と推移
a. 男性
b. 女性
c. 衣服
キトン ペプロス マント
d. 神話上の生き物
ケンタウロス、シレノス ゴルゴン、ゴルゴネイオン
スフィンクス、グリュプス、オケアノス
e. 動物
馬 ライオン、豹 牛、猪、鹿、山羊 その他の小動物
f. 植物文
g. インスクリプション

第3節 関連陶画家との比較

a. ソフィロス
b. 「KXの画家」
c. 「アテネ533の画家」
d. ネアルコス
e. リュドス
f. エウケイロスとリトル・マスター・カップの画家たち

第4節 様式と編年

第5章 図像の展開

第1節 《フランソワの壺》

a. 描かれた神話
ベレウスとテティスの婚礼 カリュドンの猪狩り パトロクロスの葬祭競技 トロイロスの殺害 テセウスと解放されたアテナイの若者たちの踊り ラビテス族とケンタウロスの戦い ヘファイストスの帰還 動物闘争文 ピュグマイオスと鶴の戦い ゴルゴン ポトニア・テロンとしてのアルテミス アキレウスの遺骸を運ぶアイアス
b. 図像プログラム

第2節 その他の作品群に描かれた図像

a. 英雄たちの伝説
トロイア戦争とその周辺 テセウス ヘラクレス
b. 神々の物語
c. その他の図像

結語

作品カタログ

文献略号表
文献目録
口絵・図版一覧および出典
参考図版一覧および出典
おわりに

索引
付図

図版

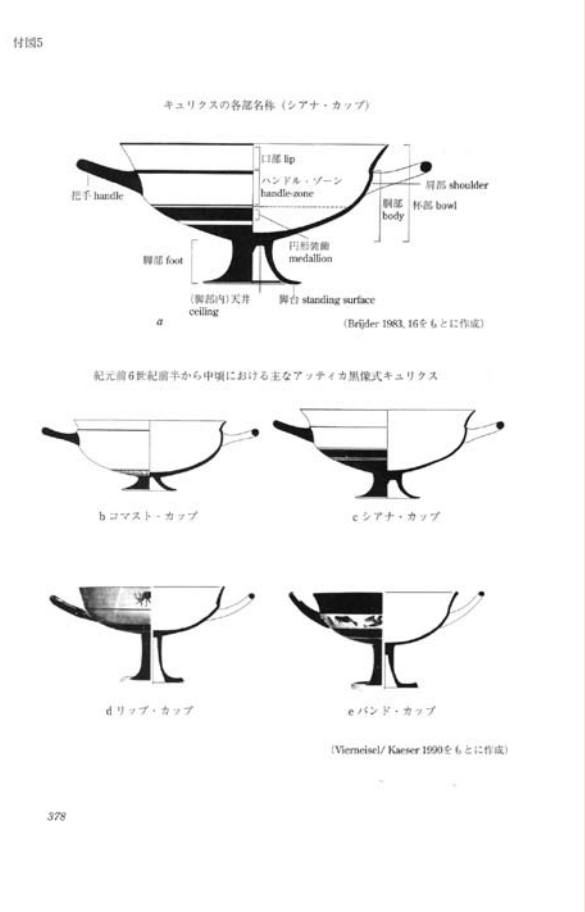
図版1－49
参考図版1－30



C11 メリーソート・カップ ベルリン国立博物館

付図見本

(約50%縮小)



図版見本

(約50%縮小)



A面肩部 ベレウスとテティスの婚礼

図版見本

(原寸大)



著者略歴

平山東子（ひらやま とうこ）

1970年 神奈川県生まれ
1992年 慶應義塾大学文学部卒
1992～1995年 東京大学大学院人文科学研究科美術史学専攻修士課程
1995～2000年 同大学院人文社会系研究科美術史学専攻博士課程
2000～2003年 日本学術振興会特別研究員（PD）
2003年より（財）平山郁夫シルクロード美術館学芸員博士（文学）。専攻はギリシア美術史。

【主要著書】

『描かれたギリシア神話』（共著、講談社、1998年）、
『壺絵が語る古代ギリシア』（共著、山川出版社、2000年）ほか。



B5判 上製函入
464頁 図500余点

定価 37,800円（本体36,000円＋税）
ISBN4-8055-0497-8 C3071

（約50%縮小）

図版見本



a 右把手内側 bc 左把手 d-f 胴部下段動物闘争文 gh 脚部 ビュグマイオスと鶴の戦い

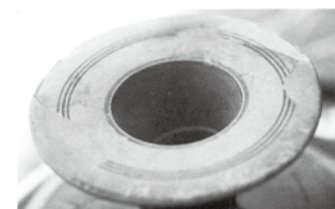
397



a 内側



b 外側部分



c 脚台底面

A16 ゴルディオン・カップ ベルリン国立博物館

407

お取り扱いは

中央公論美術出版

<http://www.chukobi.co.jp>

〒104 - 0031 東京都中央区京橋 2 - 8 - 7
電話 03 (3561) 5993 FAX 03 (3561) 5834